



シーバードジャパン広報リリース

◆事業名：シーバードジャパン開所式

「シーバードあわじ」

●日時：2019年5月17日（金）

●場所：ブルーワインあわじ（兵庫県淡路市楠本）

さあ本格シーズン到来！

水辺の安全安心を最優先に。

水上オートバイで活動するシーバードの49番目の拠点が誕生

水上オートバイで水辺の安全安心に貢献するシーバードの49番目となる拠点「シーバードあわじ」の開所式が5月17日（金）に、兵庫県・淡路島の海岸で行われました。運営母体である（有）ブルーラインは、大阪に本社を置く水上オートバイの販売・保管や水上オートバイレンタルなども行っている水上オートバイの拠点です。

「こんな素敵な乗り物があったなんて、もっと早く知りたかった！これは30歳代の女性が初めて水上オートバイに乗って、海岸に戻っての一言です」ブルーライン代表・小比賀 隆氏は開所式のあいさつで、こう切り出しました。

「30年もこの仕事をしていて忘れかけていたことを、あらためて思い出しました。海原を自由に走るこの乗り物の素晴らしさをもっと広めていきたい。子供たちを海にいざないたい。そのために安全への取り組み、事故を起こさないための準備が必須です。シーバードの一員となって、レスキューの資格取得、様々なノウハウを吸収しながら継続していきます」と結びました。

開所式後には、シーバードジャパン主管のPWSA（竹長 潤会長、田口正規本部事務局長）、日本青バイ隊（山口富士夫氏）、ウォーターリスクマネジメント（今西淳樹理事長）が出席しての「シーバードあわじ」隊員との意見交換会を実施。活動のリーダーとなる節和 香さんも「流れ着くゴミの処理、一部の無謀ライダーの対処などの課題がありますが、それらの解決のヒントもいただきました。近隣や先輩シーバード拠点の皆様からご指導や応援をいただきながら、よりよい方向に向かっていけるという気持ちです」と力強く話してくれました。

なお開所式に先立って、淡路島にゆかりのある松帆神社によって安全祈願式が執り行われマリレジャーの安全を祈りました。

梅雨前線とともにいよいよ本格マリンシーズンの到来。水辺の安全安心を掲げるシーバードジャパンの活動にも、ますます期待が寄せられています。